

詩篇 5 篇、7 篇

「誹謗中傷する悪者との戦い」

詩篇 5 篇

5:1 私の言うことを耳に入れてください。【主】よ。私のうめきを聞き取ってください。5:2 私の叫びの声を心に留めてください。私の王、私の神。私はあなたに祈っています。5:3 【主】よ。朝明けに、私の声を聞いてください。朝明けに、私はあなたのために備えをし、見張りをいたします。5:4 あなたは悪を喜ぶ神ではなく、わざわいは、あなたとともに住まないからです。5:5 誇り高ぶる者たちは御目の前に立つことはできません。あなたは不法を行うすべての者を憎まれます。5:6 あなたは偽りを言う者どもを滅ぼされます。【主】は血を流す者と欺く者とを忌みきらわれます。5:7 しかし、私は、豊かな恵みによって、あなたの家に行き、あなたを恐れつつ、あなたの聖なる宮に向かってひれ伏します。5:8 【主】よ。私を待ち伏せている者がおりますから、あなたの義によって私を導いてください。私の前に、あなたの道をまっすぐにしてください。5:9 彼らの口には真実がなく、その心には破滅があるのです。彼らののどは、開いた墓で、彼らはその舌でへつらいを言うのです。5:10 神よ。彼らを罪に定めてください。彼らがおのれのはかりごとで倒れますように。彼らのはなはだしいそむきのゆえに彼らを追い散らしてください。彼らはあなたに逆らうからです。5:11 こうして、あなたに身を避ける者がみな喜び、とこしえまでも喜び歌いますように。あなたが彼らをかばってください、御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。5:12 【主】よ。まことに、あなたは正しい者を祝福し、大盾で囲むように愛で彼を囲まれます。

詩篇 7 篇

7:1 私の神、【主】よ。私はあなたのもとに身を避けました。どうか、追い迫るすべての者から私を救ってください。私を救い出してください。7:2 救い出す者がいない間に彼らが獅子のように、私のたましいを引き裂き、さらって行くことがないように。7:3 私の神、【主】よ。もし私がこのことをしたのなら、もし私の手に不正があるのなら、7:4 もし私が親しい友に悪い仕打ちをしたのなら、また、私に敵対する者から、ゆえなく奪ったのなら、7:5 敵に私を追わせ、追いつかせ、私のいのちを地に踏みにじらせてください。私のたましいをちりの中にとどまらせてください。セラ7:6 【主】よ。御怒りをもって立ち上がってください。私の敵の激しい怒りに向かって立ち、私のために目をさましてください。あなたはさばきを定められました。7:7 国民のつどいをあなたの回りに集め、その上の高いみくらにお帰りください。7:8 【主】は諸国の民をさばかれる。【主】よ。私の義と、私にある誠実とにしたがって、私を弁護してください。7:9 どうか、悪者の悪があとを絶ち、あなたが正しい者を堅く立てられますように。正しい神は、心と思いを調べられます。7:10 私の盾は神にあり、神は心の直ぐな人を救われる。7:11 神は正しい審判者、日々、怒る神。7:12 悔い改めない者には剣をとぎ、弓を張って、ねらいを定め、7:13 その者に向かつて、死の武器を構え、矢を燃える矢とされる。7:14 見よ。彼は悪意を宿し、害毒をはらみ、偽りを生む。7:15 彼は穴を掘って、それを深くし、おのれの作った穴に落ち込む。7:16 その害毒は、おのれのかしらに戻り、その暴虐は、おのれの脳天に下る。7:17 その義にふさわしく、【主】を、私はほめたたえよう。いと高き方、【主】の御名をほめ歌おう。

はじめに

詩篇 5 篇と 7 篇では、著者が感情的にも知性的にも戦っています。

著者は、周囲の人々の罪深さや邪悪な行いに心を痛めています。

今日はおもに、詩篇 5 篇を学びます。

詩篇 5 篇が「呪いの詩篇」と呼ばれるものだからです。

この「呪い」とは「呪い」や「裁き」を指します。

詩篇の中には、罪人を滅ぼそうと今か今かと待ち構えておられる怒る神を描いたものがあります。

(詩篇 12, 35, 37, 58, 59, 79, 83, 109, 139, 140 篇は呪いの詩篇です。)

著者はこれらの詩篇で、自らの敵に対する復讐を求めていることを伝えます。

これらの詩篇の著者の意図や神のご性質についてとやかく言う前に、いくつかの事実を考慮しなければなりません。

1. 第一の事実は、詩篇 5 : 10 に記されています。この場合の敵は、主に逆らう者たちと記されています。ですから実際にこの敵たちが戦っている相手は、神なのです。
この個所では、物理的な戦いとして表出していますが、霊の戦いが起きています。
2. 私たちが理解すべき第二の事実は、ユダヤ民族が神との契約の関係にあったということです。彼らが神に従うかぎり彼らを守ると神は約束しておられました。
(レビ記 26 章、申命記 27-29 章)
神がアブラハムと契約を結ばれたとき、イスラエルの民を祝福する人々を祝福し、イスラエルの民を呪う者を呪うと約束されました。

創世記 12 : 1-3

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

ユダヤ人が邪悪な敵を正しく取り扱ってくださいと神に願うのは、神の契約にある約束を守ってくださいとお願いしていることなのです。

聖書は、神が愛であると教えます。(ヨハネ第一 4 : 8,16) しかし、神は光でもあられません。(ヨハネ第一 1 : 5)

ですから、神は「聖なる」お方であり、罪を罰する必要があります。

アダムとエバが神に逆らった出来事は、創世記 3 章に記されています。このとき以来、この世では真実と嘘、正義と不正、正と悪の間に戦いが続いています。

私たちクリスチャンは、この戦いで中立を保つことはできません。

神は、十戒をとおして何が正しくて何が間違っているかを教えてくださいました。

ですから、私たちは神の視点で罪を見ることを決して忘れてはいけません。

すべての罪は究極的には、神とそのみことばに対する罪です。

ダビデは姦淫の罪を犯した後、自らの罪を悔い改めました。その悔い改めの祈りが詩篇 51 篇に記されています。この祈りで、ダビデは「私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。」と言いました。(詩篇 51 : 4a)

ダビデは、自分の罪が神に対して犯した罪であると悟っていました。

3. 私たちが知るべき第三の事実は、聖書の他の著者たちが語っていることです。これらの呪いの詩篇の著者と類似した見解を教える聖書の著者たちが他にもいます。

エレミヤ 15 : 15

15:15 【主】よ。あなたはご存じです。私を思い出し、私を顧み、私を追う者たちに復讐してください。あなたの御怒りをおそくして、私を取り去らないでください。私があなたのためにそしりを受けているのを、知ってください。

マタイ 23 : 23-33

23:23 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、十分の一もおろそかにしてはいけません。 23:24 目の見えぬ手引きども。ぶよは、こして除くが、らくだは飲み込んでいます。 23:25 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。 23:26 目の見えぬパリサイ人たち。

まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。 23:27 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。 23:28 そのように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。 23:29 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは預言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、 23:30 『私たちが、父祖たちの時代に生きていたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかっただろう』と言います。 23:31 こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言しています。 23:32 おまえたちも父祖たちの罪の目盛りの不足分を満たしなさい。 23:33 おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができよう。

他にも、黙示録 6 : 9-11 では、殉教者たちが天から願い求めます。

黙示録 6 : 9-11

6:9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。 6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」 6:11 すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい」と言い渡された。

C.S.ルイスは次のように語りました。

「私たちは、身近にある悪や不敬虔に立腹するほど罪を憎んでいない。」
現代社会の問題は、神を恐れない悪い行いがあまりにも横行し、そのようなことを聞いてもショックを受けたり動揺したりしなくなってしまうことです。
そうすると、罪に対する意識が薄れます。
聖霊なる神が私たちの罪をお示しになったら、私たちはそれを真剣に受け止めなければなりません。
人が罪深い行為をするなら、それは神に対して罪を犯しているのです。ですから、その人の行いに対して神が裁きと罰をくだされるのは当然です。
これで、「呪いの詩篇」について少しおわかりいただけただけでしょうか。
では、詩篇 5 篇の学びに入りましょう。

詩篇 5 篇は 3 つに分けて学びましょう。

1. 神にお会いする準備 (1-3 節)
2. 神を喜ばせたいという願い (4-6 節)
3. 神への明け渡し (7-12 節)

1. 神にお会いする準備 (1-3 節)

先週、英国王室の結婚式がウィンザー城でありました。もし私たちがその結婚式に招待されていたら、きっと時間をかけて準備したでしょう。

衣装を入念に選び、この大事な晴れの日の謁見にしっかりと備えるでしょう。

けれども、神に選ばれた王ダビデは、毎朝もっと大切な謁見をしていました。その謁見とは、全世界の創造主神ご自身に拝謁することです。

ダビデは、早朝を神とともに過ごす一日の一番大切な時間としていました。

そして、朝に祈って神とともに過ごす二度語ります。(3 節)

実際驚かれるかもしれませんが、OIC の弟子訓練では、前日の夜から翌朝のデボーションに備えるよう勧めています。なぜでしょう。

前日の夜寝る前に考えていたのと同じことを、朝起きて最初に考えていませんか。

私たちの脳はそのようにできています。

ですから、朝起きてデボーションの良いひと時を過ごしたいなら、前日の夜から備える必要があります。

聖書を開いて、翌日読む聖書箇所をしるししておきます。また、デボーション冊子を使っている人は、寝ている場所からすぐに手の届くところに置いておきましょう。

また、祈祷課題を書き留めるためにノートも用意しておきます。

前日の夜にこうやって準備しておくことで、翌朝のデボーションの時間をよりよいものできます。

ダビデは、朝のデボーションのひとつきを忠実に守っていましたが、それだけではありません。彼には秩序と計画性がありました。

3節で、「備えをし」と訳されたヘブル語の単語は、祭壇に動物のいけにえを順序良く並べることを言い表すときに使われた単語です。（レビ記 1:8）

また、祭壇にたきぎを並べることを言い表すのにも用いられました。（創世記 22:9）

ダビデは、いかげんに祈ってはいませんでした。順序立てて祈っていました。

この単語は軍隊用語でもあります。兵士が指令を受けるために司令官の前に出ることを指します。

つまり、ダビデは朝の祈りの時を、神の御前に自らを明け渡し、その日神に仕えるために自らを差し出す時間としてとらえていました。

ダビデは、実際の戦闘も行う兵士でしたが、霊の戦いに備えていました。

私たちが神とのデボーションのときをどのように過ごそうと、自らを新たに神に明け渡すひとときであるべきです。また、その日一日について神の導きを求めるひとときでなくてはなりません。

神なしでその日すべきことをなせるなら、神も、私たち抜きでご自身の働きをなすことができになります。

神はみこころとご計画のままに、私たちのうちに、そして私たちをとおして働くことをお望みです。

毎朝神から指令や教えを受けようと備えることは、神のみこころをなすうえで、少なくとも出発点には立てるはずで。

2. 神を喜ばせたいという願い（4-6節）

詩篇の著者は、4-6節で神の憎まれることについて語ります。

神は、悪、不法な行い、誇り高ぶる者たち、偽りを言う者たちを憎まれます。

ダビデはまず、神の聖さと神の罪に対する憎しみを主張します。

もし神に逆らう罪人が神のご臨在の中に迎え入れていただけないなら、誰が神のご臨在の中に迎え入れてもらえるのでしょうか。

私たちは、どうすれば神に喜んでいただけるのでしょうか。

a) 詩篇 147:11 が教えてくれます。

147:11 主を恐れる者と御恵みを待ち望む者とを【主】は好まれる。

神を恐れるとは、神のご性質と御業に対する健全な敬意です。神がどのようなお方で、何をしてくださったのかを理解し、神の聖なるご性質を敬うと、私たちは神に喜んでいただけます。

神の特性をしっかりと理解し、そのご品性を敬うことが、神を喜ばせる秘訣です。

配偶者を喜ばせようと思えば、配偶者の好みを知る必要があります。

誰かを愛していれば、その相手を喜ばせたいと思うものです。私たちがイエスを愛しているなら、イエスを喜ばせたいと思うはずで。

b) 詩篇 69:30-31

69:30 私は神の御名を歌をもってほめたたえ、神を感謝をもってあがめます。 69:31 それは雄牛、角と割れたひづめのある若い雄牛にまさって【主】に喜ばれるでしょう。

神に喜んでいただくためには、心からの賛美をささげる必要があります。私たちが神をたたえるとき、神はそこに誠実さを求めておられます。悲しいときや不幸だと感じているときは神をたたえられません。私たちの心が神と向き合っている必要があります。神を正しくたたえるためには、真摯な心で神に向かわなければなりません。

c) ヘブル 11 : 6

11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

神に喜んでいただくためには、「信仰」に基づいて生きていなければなりません。信仰とは、世間や周囲の人々の考えにそぐわないとしても神のみことばを信じることです。

d) 神に喜んでいただくためには、神の御子イエス・キリストとひとつである必要があります。

マタイ 3 : 17

3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

神は、イエス・キリストを喜んでおられると天からおっしゃいました。私たちが神に喜んでいただくためには、神の御子イエス・キリストとひとつになることを恐れてはいけません。以前奉仕していた教会で、ある人が言いました。「私は、自分はクリスチャンですとは人に言いません。いつも、私はイエスを愛しています、と言うようにしています。」その人は、そう言うことで自分が心の中でどう思っているかを伝えることができ、常に何らかのリアクションが得られると言います。そうやって、会話を始めるのです。イエスを愛する理由を尋ねられることもあれば、どのようにイエスへの愛を表すのかと尋ねられることもあるそうです。このようにしてイエスとひとつであることを表明すると、常に福音を明確に分ち合うことができると言います。

e) ヘブル 13 : 16

13:16 善を行うことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。

神への愛に根差して犠牲を払い、現実的に人の役に立つことを行い、自分の人生と持ち物を人と分ち合うのは、神に喜んでいただける行為です。

使徒 4 : 32

4:32 信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた。

教会が始まったペンテコステの日以降、信徒たちは神を喜ばせました。すべての持ち物を分かち合っていたからです。

神を愛する人々が神の愛される物事を愛し、神の憎まれる物事を憎むことを神は望まれます。

神は失われた罪人の世を愛されます。そして、世の代わりに死ぬためにひとり子イエス・キリストを遣わされました。

ヨハネ 3 : 16

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神の救いの招きは、イエスを信じてイエスのもとにやってくるすべての人に与えられます。

マタイ 11 : 28-30

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。 **11:29** わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。 **11:30** わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

神の恵みと愛は驚くほどすばらしいものです。

けれども、神の愛という栄光の真理は、神が罪を憎まれ罪人を罰せられるという事実を覆すものではありません。

神は、そのような人々を喜ばれず、罪人は神のご臨在のうちに住まうことができません。
(詩篇 5 : 4)

神が悪を忌み嫌われることは、神の神聖さの現れです。

ウォレン・ウィーズビーは注解書で次のように語ります。

「神の聖なる宮で神と交わりたいならば、罪に対して神が感じられる苦悩を感じ、罪人に対して神が持っておられる愛を持たなければならない。」

つまり、神のみことばに則ってクリスチャンとしての人生を生きていきたいなら、新生して神の聖霊にゆだねなければならないということです。

3. 神への明け渡し (7-12 節)

7-12 節で、ダビデは祈りの中で神に 3 つの願いをしました。

そのことについて祈り始める前に、ダビデはまず正しい心の姿勢で神の御前に出ました。

7 節には、ダビデが神の恵みを感謝する心をもって神のもとに出たとあります。

ダビデには、神が魅力的と感じられる部分は何もありませんでした。

神が唯一感心なされたことは、ダビデの心の状態です。

彼が選ばれたのは、神をたたえたいと願う心の持ち主だったからです。

私たちも、常に神の恵みあわれみが注がれていることを認識していれば、神をたたえるでしょう。

エペソ 2 : 4-10

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、 **2:5** 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです— **2:6** キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。 **2:7** それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるため

でした。2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。2:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

神の恵みとあわれみによって、私たちは神の器となることができます。
神はイエスをとおして私たちにあわれみを豊かに示してくださっています。

ヘブル 10 : 19-22

10:19 こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。10:21 また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。10:22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。

1) ダビデは導きを求めて祈った。(7-8 節)

8 節で、ダビデは敵がいるので、神の導きを祈りました。

彼には敵がたくさんいたので、日々すべきことを知る必要がありました。

彼の命は、日々の神の助けにかかっていました。

ダビデの「あなたの義によって私を導いてください」という言葉に注目してください。

ダビデは、神の明確な導きを求めていました。

敵は不当に彼を中傷していました。それで、神の明確な導きを得ることで神をたたえるだけでなく、その状況で神に栄光を帰したいとダビデは考えていました。

どのような状況であれ、私たちが神に助けと導きを求め、神が最善を備えてくださると信じて神に完全に明け渡すなら、その結果について神を信頼してお任せしなければなりません。

それは容易なことではありません。

多くの場合、私たちには自分の考えや計画があり、それを神が祝福してくださるのを願っているだけです。

イザヤ 55 : 8-13

55:8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——【主】の御告げ——55:9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。55:10 雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。55:11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。55:12 まことに、あなたがたは喜びをもって出て行き、安らかに導かれて行く。山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声をあげ、野の木々もみな、手を打ち鳴らす。55:13 いばらの代わりにみみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。これは【主】の記念となり、絶えることのない永遠のしるしとなる。」

2) ダビデは正義を求めて祈った。(9-10 節)

9 節では、ダビデの敵が彼を中傷しているという問題が明らかにされています。

「彼らの口には真実がなく」とあります。

ヤコブの手紙の 3 章には、舌に関する警告があります。

舌には、祝福する力も破壊する力もあると語ります。

その破壊的側面として、舌は誰にも制御されない悪であり、死の毒が満ちているとあります。

詩篇 5 篇のケースでは、ダビデの敵が舌を使ってダビデを破滅させようとしていました。

ダビデに関する悪いうわさが火のようにまたたく間に広がっていました。

ダビデは、自分を破滅に追い込もうとする人々に対して正義がなされることを願いました。
10 節で、ダビデは彼らの罪が神への反逆だと言います。
そして、「彼らがおのれのはかりごとで倒れますように」と言います。
リビングバイブルには、「自分でしかけた罠にかからせてください」とあります。
驚くべきすばらしいことに、神はダビデの祈りに見事に答えてくださいました。

サムエル第二 18 : 6

18:6 こうして、民はイスラエルを迎え撃つために戦場へ出て行った。戦いはエフライムの森で行われた。

ダビデの兵士たちを捕えようと仕掛けられた罠があったでしょうが、アブシャロムの手下たちがそれにひっかかって死にました。アブシャロム自身も木の枝に頭がひっかかったのです。

サムエル第二 18 : 9

18:9 アブシャロムはダビデの家来たちに出会った。アブシャロムは騾馬に乗っていたが、騾馬が大きな樅の木の下を通ったとき、アブシャロムの頭が樅の木に引っかかり、彼は宙づりになった。彼が乗っていた騾馬はそのまま行った。

神は正義の神であります。そして、ご自身の時と方法で正義を実行なさいます。
ヘブル 10 : 30 は、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする」と主が言われると語ります。

自分の置かれた状況で正義がなされるように祈ることは間違っていないですが、正義の実行の時や方法については神にお任せしなければなりません。

3) ダビデは、神の祝福を求めて祈った。(11-12 節)
この 11-12 節でダビデは神の民に喜び、喜び歌うようにと 2 度促しています。
民は神を信頼したので、心のうちに喜びがありました。
ダニエル 11 : 32 は次のように語ります。

ダニエル 11 : 32

11:32 彼は契約を犯す者たちを巧言をもって墮落させるが、自分の神を知る人たちは、堅く立って事を行う。

神と一対一の出会いをし、神のみことばを信じるなら、境遇に左右されずに大きな喜びをもつことができます。

ネヘミヤ 8 : 10 は、「悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」(新共同訳)と語ります。

主との交わりがクリスチャンの信徒にもたらすものは、神のご性質と約束と祈りに対するあわれみ深い答えとを喜ぶ「喜び」です。

ダビデは、デボーションの時間の最初で自分を助けていただくことを求めましたが、最後には、すべての神の民への祝福を求めて祈りました。

私たちのデボーションのときも、そのようにしめくくるべきではないでしょうか。